



2023年3月期 決算説明会

2023年5月15日
スズキ株式会社

(参考) 表紙画像「フロンクス」

力強さと流麗さを際立たせた新しいクーペスタイルと取り回しの良さを備えた新ジャンルのSUV

4月24日からインドNEXA店で販売開始

2023年3月期決算	3
四輪台数実績	14
二輪台数実績	21
マリン	22
単独	23
株主還元	24
通期業績予想	25

	(億円)	当期 ('22/4-'23/3)	前期 ('21/4-'22/3)	増 減		補足
				増	減 増減率	
連結 業績	売上高	46,416	35,684	+10,733	+30.1%	2期連続増収、過去最高
	営業利益 (利益率)	3,506 (7.6%)	1,915 (5.4%)	+1,591	+83.1%	5期振り増益、過去2位
	経常利益 (利益率)	3,828 (8.2%)	2,629 (7.4%)	+1,199	+45.6%	3期連続増益、過去最高
	当期純利益 [※] (利益率)	2,211 (4.8%)	1,603 (4.5%)	+608	+37.9%	3期連続増益、過去最高
世界 販売	四輪車	3,000千台	2,707千台	+293千台	+10.8%	インド、日本、アフリカ等で増加
	二輪車	1,859千台	1,639千台	+220千台	+13.4%	インド、アセアン、中南米等で増加
配当	一株当たり 年間配当金	100円	91円	+9円		3期連続増配 [※] 、過去最高 ※記念配当を含むと4期連続増配
	ROE	11.2%	9.0%		+2.2%	

※ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

3 / 31

今回の決算の総括をいたします。

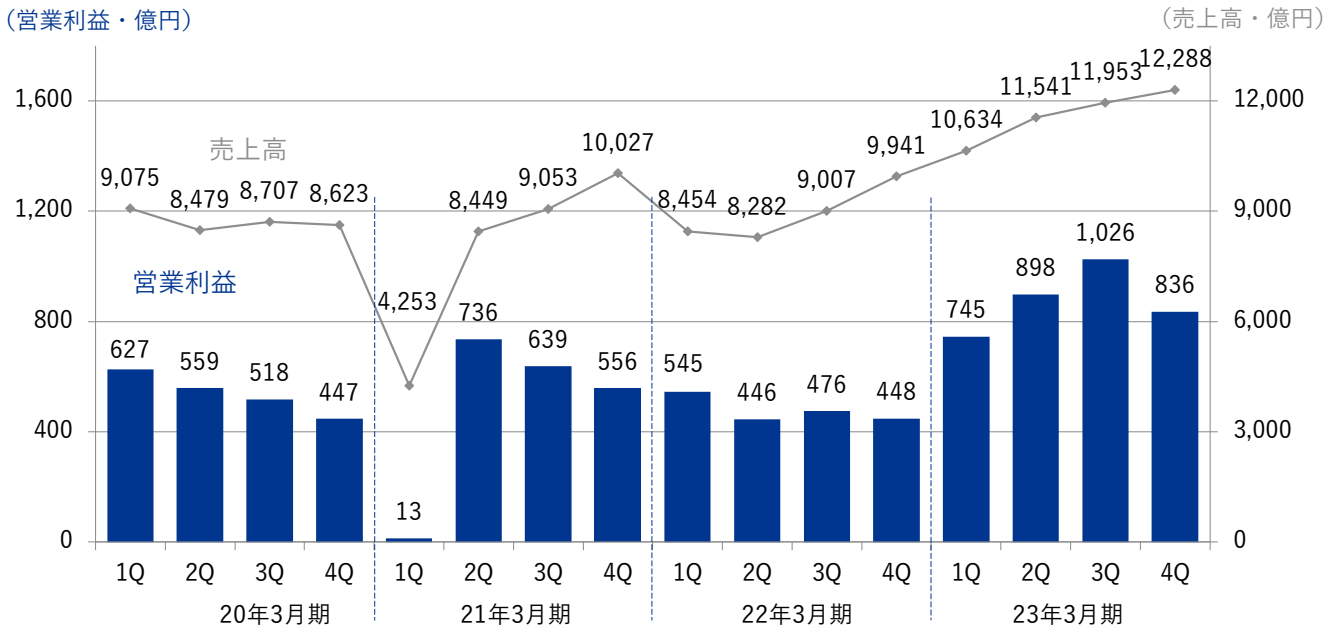
売上高はインド、日本で販売台数が増加したこと等により
4兆6,416億円となり前期に比べ、
1兆733億円増加しました。

営業利益は販売台数増加や為替円安効果等により、
3,506億円と前期に比べ、1,591億円増加しました。
経常利益は、3,828億円と前期に比べ、1,199億円増加、
当期純利益は2,211億円と前期に比べ608億円増加しました。

四輪車の世界販売は、インド、日本、アフリカ等で増加しました。
二輪車の世界販売は、インド、アセアン、中南米等で増加しました。

一株当たり年間配当金は前期より9円増配し
100円とさせていただく予定です。

ROEについては純資産が増加しましたが、それ以上に利益が増加したことで、1
1.2%と前期に比べ大幅に改善しました。



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

四半期毎の業績についてご説明させていただきます。

当第4四半期の売上高は全ての四半期で過去最高となりました。

営業利益については円安効果が大きかった第3四半期と比べ、研究開発費の増加等により、減少しましたが、800億円以上の利益を確保しています。

2023年3月期決算 | 売上高の状況



(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合計			増減内訳		
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	為替影響	数量増減	
国内計	11,744	10,359	+1,384	223	225	▲1	35	32	+3	118	121	▲3	12,120	10,737	+1,383		+1,216	
自 社	10,782	9,530	+1,252	223	225	▲1	35	32	+3	118	121	▲3	11,158	9,908	+1,250			
O E M	962	829	+133										962	829	+133			
海外計	29,878	21,689	+8,188	3,108	2,310	+798	1,310	948	+363				34,296	24,947	+9,350	+3,216	+2,951	
欧州	4,149	3,667	+482	392	294	+98	251	220	+32				4,792	4,181	+612	+332	▲129	
北 米	6	7	▲1	480	300	+180	750	487	+264				1,237	794	+443	+207	+121	
アジア	20,509	14,528	+5,981	1,660	1,268	+392	105	105	▲0				22,274	15,901	+6,373	+2,124	+2,279	
インド	16,987	11,107	+5,879	887	631	+256	8	6	+2				17,882	11,744	+6,138	+1,893	+2,406	
〃以外	3,522	3,421	+102	773	637	+136	96	99	▲2				4,392	4,157	+236	+231	▲127	
その他	5,213	3,487	+1,726	576	448	+128	204	136	+67				5,993	4,071	+1,922	+553	+680	
総合計	41,622	32,048	+9,573	3,332	2,535	+797	1,346	980	+366	118	121	▲3	46,416	35,684	+10,733	+3,216	+4,167	
内、為替換算影響			+2,756			+302			+159									+3,216

注. 当期…2022年4月～2023年3月期、前期…2021年4月～2022年3月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

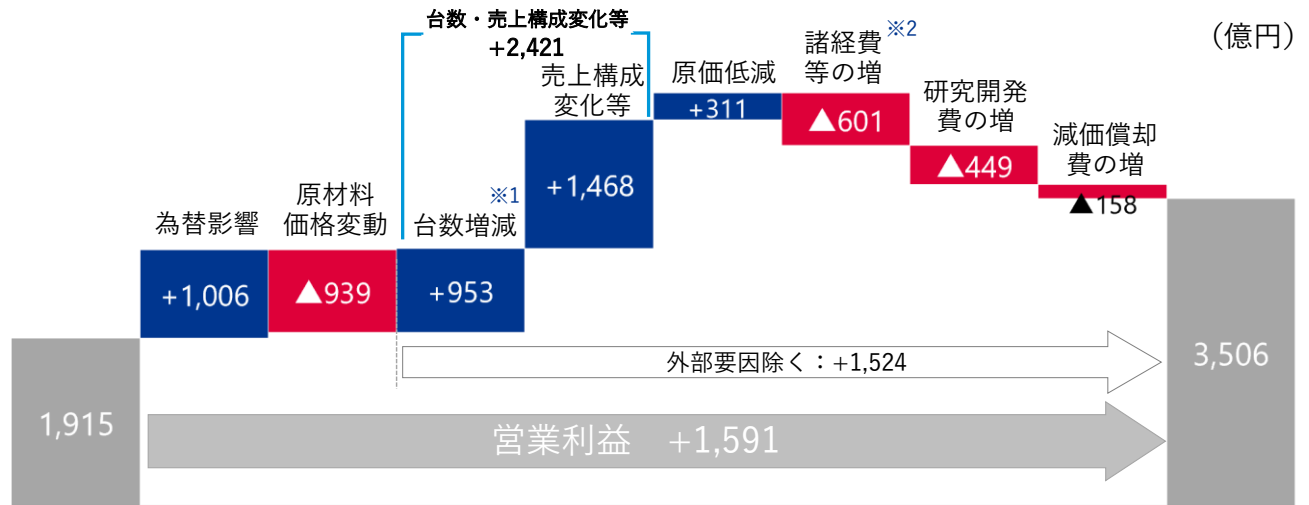
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

当期の売上高の状況をご説明させていただきます。

売上高はインドや日本をはじめとした各地域で増加し、
4兆6,416億円と前期に比べ1兆733億円の増収となりました。

内、為替影響は+3,216億円、
販売数量増加は+4,167億円の増収要因です。

海外売上高は、為替影響、販売数量増加に加えて、
原材料価格高騰を反映した値上げ効果もあり、
3兆4,296億円と9,350億円の増収となりました。



前期 営業利益 '21/4-'22/3	※1 台数増減による影響 ・ 当社単独 ・ 子会社 (内マルチ)	内訳 + 528億円 + 425億円 + 215億円	※2 諸経費等の増 ・ 発送費 ・ 労務費 ・ 品質関連費用	内訳 ▲424億円 ▲78億円 + 95億円 など	当期 営業利益 '22/4-'23/3
---------------------------	---	-------------------------------------	---	------------------------------------	---------------------------

注. 従来の売上・構成変化等を台数増減と売上構成変化等に分解。それに伴い、項目名を台数・売上構成変化等へ変更

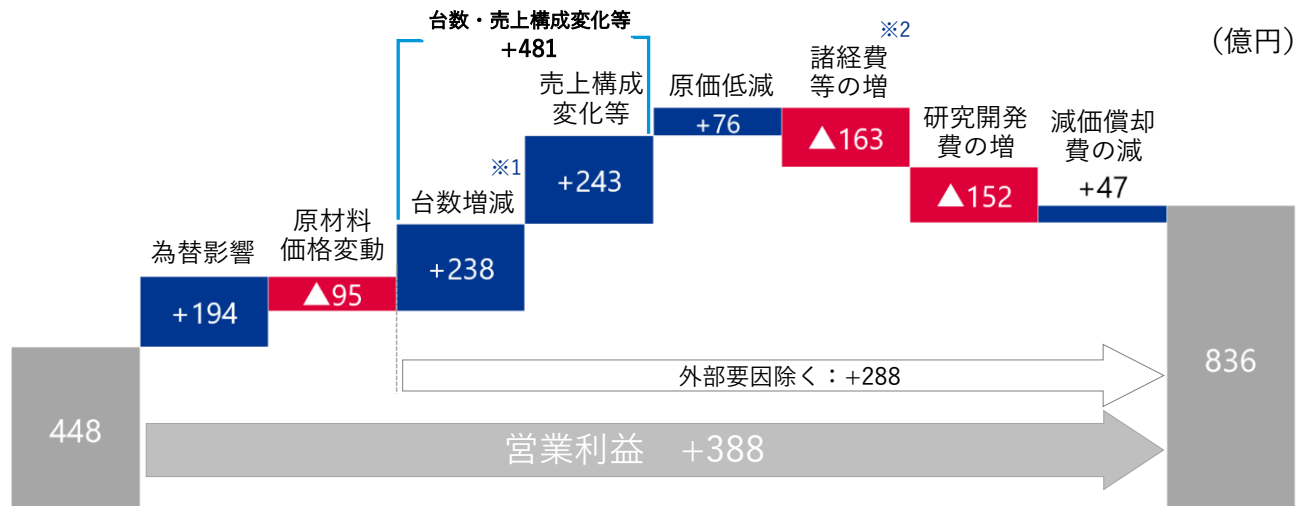
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

当期の営業利益増減要因についてご説明いたします。

当期の営業利益増減要因につきましては、
為替影響+1,006億円の増益要因に対し、
原材料価格変動が▲939億円の減益要因となりました。

これらの外部要因を除く項目では、
台数増減で+953億円、
売上構成変化等で+1,468億円、
原価低減により+311億円増加。

一方で、
台数増に伴う諸経費等の増で▲601億円、
研究開発費の増で▲449億円、
減価償却費の増で▲158億円となりました。



※1 台数増減による影響 内訳
 ・当社単独 + 135億円
 ・子会社 + 103億円
 (内マルチ + 42億円)

※2 諸経費等の増 内訳
 ・発送費 ▲96億円
 ・労務費 ▲31億円
 ・品質関連費用 ▲5億円 など

注. 従来の売上・構成変化等を台数増減と売上構成変化等に分解。それに伴い、項目名を台数・売上構成変化等へ変更

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

1~3月の営業利益増減要因についてご説明いたします。

為替影響+194億円の増益要因に対し、
 原材料価格変動が▲95億円の減益要因となりました。

これらの外部要因を除く項目では、
 台数増減で+238億円、
 売上構成変化等で+243億円、
 原価低減により+76億円、
 減価償却費の減で+47億円の増加。

一方で、
 台数増に伴う諸経費等の増で▲163億円、
 研究開発費の増で▲152億円、となりました。

	当期 ('22/4-'23/3)	前期 ('21/4-'22/3)	増 減	営業利益 為替影響
インドルピー	1.70円	1.52円	+ 0.18円	+ 275億円
米ドル	136円	112円	+ 23円	+ 236億円
ユーロ	141円	131円	+ 10円	+ 167億円
メキシコペソ	6.91円	5.53円	+ 1.38円	+ 159億円
オーストラリアドル	93円	83円	+ 10円	+ 47億円
インドネシアルピア ^{※1}	0.90円	0.79円	+ 0.11円	+ 36億円
南アフリカランド	7.99円	7.58円	+ 0.41円	+ 29億円
ポンド	163円	154円	+ 10円	+ 29億円
パキスタンルピー	0.61円	0.68円	▲0.07円	▲41億円
その他 ^{※2}	-	-	-	+ 69億円
計				+ 1,006億円

※1 インドネシアルピアは100ルピア当たりのレート ※2 その他…台湾ドル +15億円 他

当期の為替レートについてご説明いたします。

インドルピー、ドル、ユーロ等での円安により、
為替影響は+1,006億円の増益要因となりました。

	当期 ('22/4-'23/3)	前期 ('21/4-'22/3)	増減
(当社単独)	691億円	582億円	+109億円
(子会社)	2,008億円	1,312億円	+696億円
設備投資	2,699億円	1,894億円	+805億円
減価償却費	1,773億円	1,615億円	+158億円
研究開発費	2,056億円	1,607億円	+449億円

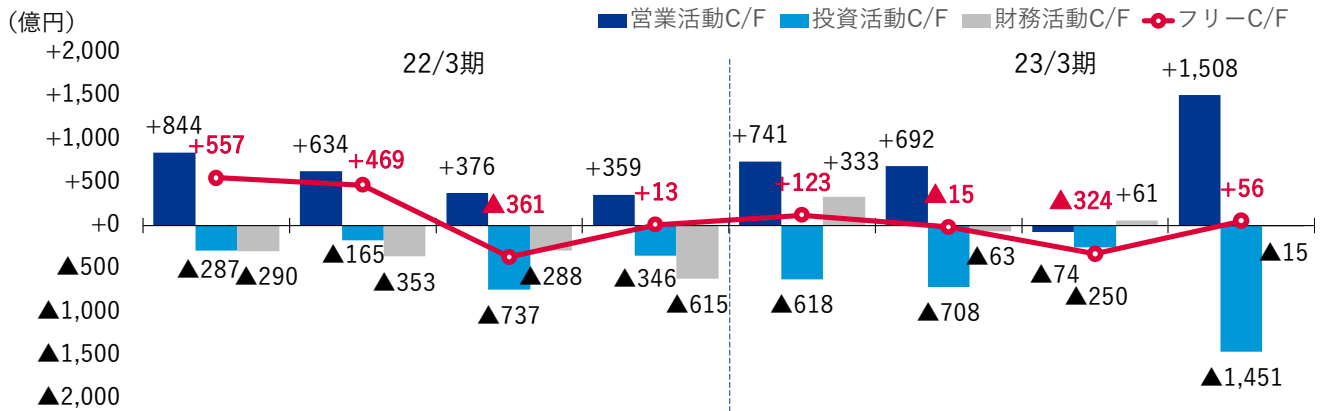
	当期末 ('23/3末)	前期末 ('22/3末)	増減
有利子負債残高	7,638億円	6,742億円	+897億円
連結子会社数	120社	119社	+1社
持分法適用関連会社数	32社	32社	±0社
従業員数	70,012人	69,193人	+819人

当期の設備投資等についてご説明いたします。

設備投資は当社単独、子会社ともに増加しました。

特に子会社は第1四半期に実施した
インド、カルコダの土地取得320億円や、
ジムニー5ドアおよびフロンクス生産準備のため
前期に比べ大きく増加しました。

研究開発費は449億円の増加となり、
期初予想の2,000億円を上回る2,056億円で過去最高となりました。



	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業C/F	+844	+634	+376	+359	+741	+692	▲74	+1,508
投資C/F	▲287	▲165	▲737	▲346	▲618	▲708	▲250	▲1,451
フリーC/F	+557	+469	▲361	+13	+123	▲15	▲324	+56
財務C/F	▲290	▲353	▲288	▲615	+333	▲63	+61	▲15
(内、配当金支払額*)	(▲257)	(▲88)	(▲220)	(▲1)	(▲225)	(▲136)	(▲243)	(+2)
キャッシュ残高	9,499	9,587	8,997	8,580	9,215	9,171	8,740	8,821

※非支配株主への配当金の支払額を含む。

キャッシュフローの状況についてご説明いたします。

引き続き積極的な設備投資を行っており、
資金を余すことなく有効に活用しています。

2030年度売上高目標7兆円の達成に向け、
今後も資金の有効活用に努めてまいります。

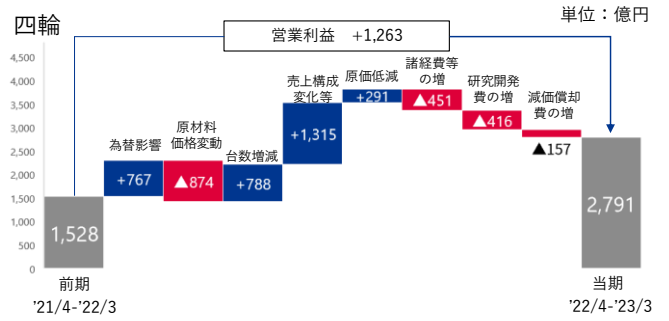
(参考) 23/3期フリーキャッシュフローについて

営業C/F + 1,508億円 …利益計上及び仕入債務等増加

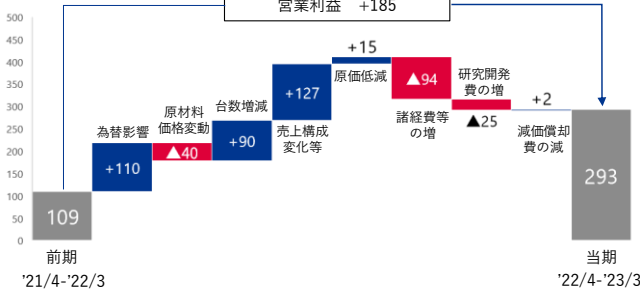
投資C/F ▲1,451億円 …有形固定資産取得▲696億円他

事業セグメント別業績

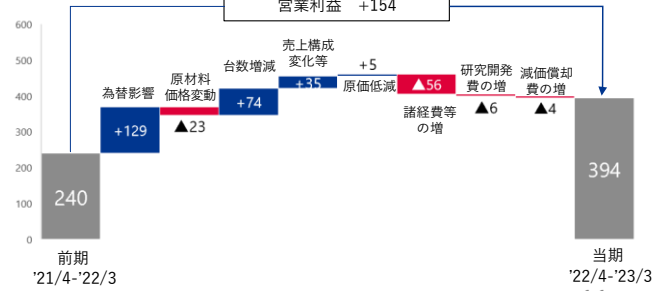
	'22/4-'23/3			'23/1-3		
	売上高	営業利益		売上高	営業利益	
	前年比	前年比	利益率	前年比	前年比	利益率
四輪	41,622 +29.9%	2,791 +82.6%	6.7%	11,129 +24.6%	680 +83.0%	6.1%
二輪	3,332 +31.4%	293 +170.2%	8.8%	804 +15.2%	64 +291.3%	7.9%
マリン	1,346 +37.3%	394 +64.2%	29.3%	328 +17.4%	86 +66.0%	26.4%
その他	118 ▲2.5%	27 ▲28.3%	22.9%	28 ▲5.9%	5 ▲35.4%	18.4%
全社計	46,416 +30.1%	3,506 +83.1%	7.6%	12,288 +23.6%	836 +86.5%	6.8%



二輪



マリン



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

次に事業別の業績についてご説明いたします。
 グラフは4～3月の事業別営業利益増減要因です。

四輪事業につきましては、
 売上高、営業利益ともに前年を上回りました。

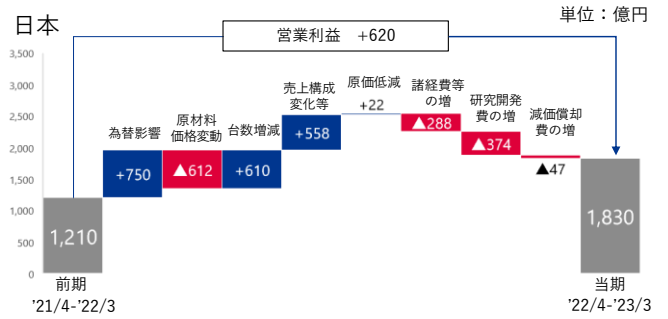
二輪事業につきましても、増収増益となりました。

マリン事業につきましては、
 売上高、利益ともに過去最高となりました。

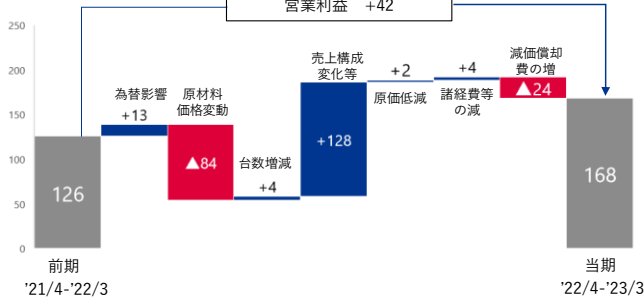
連結営業利益3,506億円の内、
 二輪293億円、マリン394億円、計688億円と約2割を占めており、
 連結業績にも多大な貢献をしております。

所在地セグメント別業績

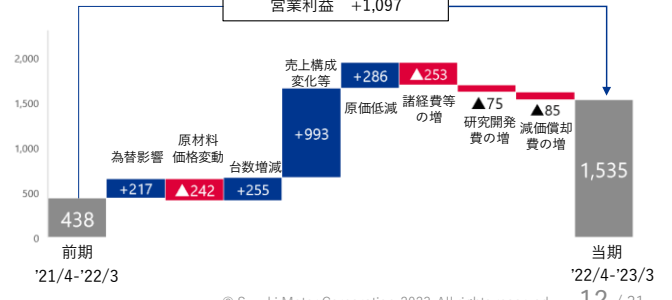
	'22/4-'23/3			'23/1-3						
	売上高	前年比	営業利益	前年比	利益率	営業利益	前年比	利益率		
日本	24,610	+27.6%	1,830	+51.2%	7.4%	6,758	+29.7%	253	▲27.8%	3.7%
欧州	6,335	+30.2%	168	+33.4%	2.6%	1,966	+71.7%	119	+419.5%	6.1%
アジア	25,455	+41.1%	1,535	+250.6%	6.0%	6,455	+20.9%	469	+375.3%	7.3%
その他	3,939	+55.6%	190	+32.4%	4.8%	956	+24.3%	8	▲77.3%	0.8%
全社計	46,416	+30.1%	3,506	+83.1%	7.6%	12,288	+23.6%	836	+86.5%	6.8%



欧州



アジア



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

続いて、所在地別の業績についてご説明いたします。

4～3月は、全地域で増収・増益となりました。

1～3月では、日本とその他地域で減益となりました。

日本は原材料価格影響と研究開発費の増等が減益要因となりました。

		ルピー建 (億ルピー) ※1			円換算額 (億円)		
		当期	前期	増減	当期	前期	増減
連結業績	売上高	11,251	8,380	+ 2,871	19,127	12,738	+ 6,389
	営業利益※2 (利益率)	819 (7.3%)	292 (3.5%)	+ 527	1,393 (7.3%)	443 (3.5%)	+ 950
	税前利益 (利益率)	1,032 (9.2%)	470 (5.6%)	+ 562	1,755 (9.2%)	714 (5.6%)	+ 1,041
	当期純利益 (利益率)	821 (7.3%)	388 (4.6%)	+ 433	1,396 (7.3%)	590 (4.6%)	+ 806
	為替レート	1.70円	1.52円	+ 0.18円			
	卸売	国内販売※3	1,707千台	1,414千台	+ 293千台		
	輸出※3	259千台	238千台	+ 21千台			
	合計	1,966千台	1,653千台	+ 314千台			

※1. ルピー建は、4月26日付でマルチ・スズキ・インドシア社が発表した連結業績値

※2. 営業利益は次式により算出
Sales of product
+ Other operating revenues
- Total Expenses
+ Finance costs

※3. 国内販売および輸出はOEMを含む

注. マルチ・スズキ・インドシア社はIndAS (インド版IFRS) に基づき会計処理をしており、本数値はあくまでも参考値

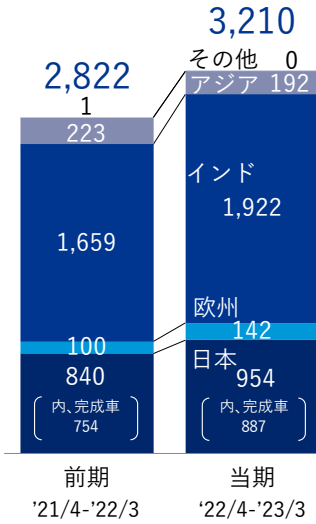
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 13 / 31

4月26日付でインドのマルチ・スズキ・インドシア社が決算を発表していますので、その内容についてご紹介させていただきます。

売上高が前期比+6,389億円の増収、営業利益が+950億円の増益となりました。

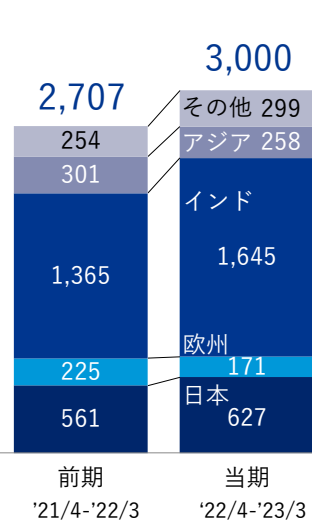
生産実績

+389千台 (+13.8%)
(千台)



販売実績

+293千台 (+10.8%)
(千台)



● 当期の世界販売

(千台)	台数	前期比	
世界販売	3,000	+293	+10.8%
インド	1,645	+280	+20.5%
日本	627	+66	+11.7%
欧州	171	▲54	▲24.0%
アジア (除インド)	258	▲42	▲14.1%
パキスタン	99	▲33	▲24.9%
インドネシア	90	▲1	▲0.9%
タイ	18	▲5	▲23.8%
その他	51	▲3	▲6.2%
その他	299	+44	+17.5%

次に生産、販売の状況についてご説明いたします。

四輪車の生産につきましては、
インド、日本、欧州で前期を上回りました。

また、販売につきましては、
インド、日本、その他地域で、前期を上回りました。

HEV比率は海外各地域で着実に増加

Strong hybrid system



Mild hybrid system



四輪ハイブリッドシステム搭載車[※] 販売台数

(千台)

	20年3月期		21年3月期		22年3月期		23年3月期					
	内、HEV [※]	HEV比率	内、HEV [※]	HEV比率	内、HEV [※]	HEV比率	内、HEV [※]	HEV比率				
日本	672	348	51.7%	647	338	52.3%	561	290	51.7%	627	324	51.7%
インド	1,436	99	6.9%	1,323	118	8.9%	1,365	135	9.9%	1,645	296	18.0%
欧州	262	41	15.8%	206	154	74.9%	225	194	86.2%	171	156	91.2%
その他	482	1	0.2%	395	5	1.3%	556	7	1.3%	557	24	4.3%
合計	2,852	489	17.1%	2,571	615	23.9%	2,707	626	23.1%	3,000	800	26.7%

※ハイブリッド車はマイルドハイブリッド、S-エネチャージ、SHVSを含む。その他地域のハイブリッド車販売台数は日本、インドからの輸出台数。

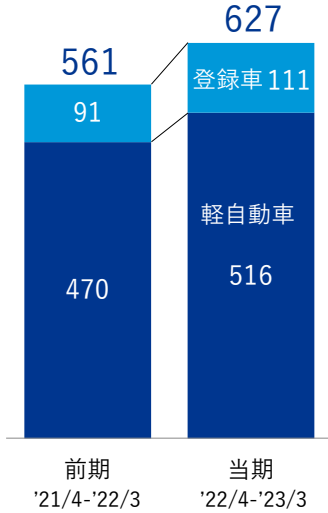
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

当期のHEV比率は26.7%となりました。

特にインドでのHEV比率が前期の9.9%から18.0%へと大幅に増加しています。

通期実績

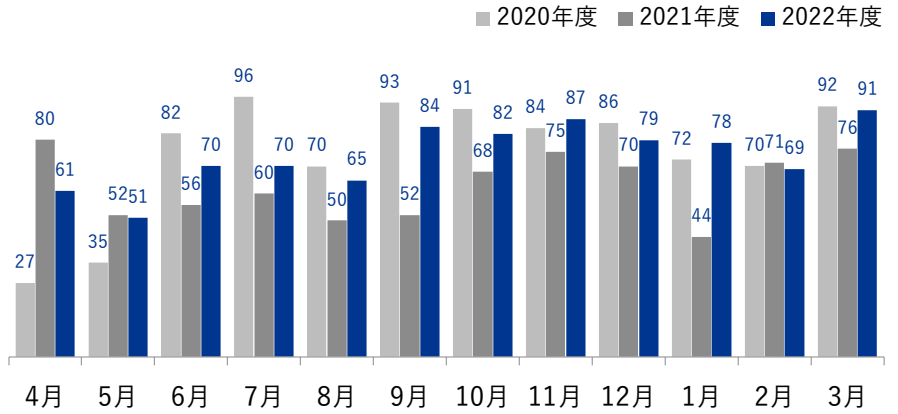
+66千台 (+11.7%)
(千台)



● 国内生産の状況

- ・国内工場では2021年5月以降、部品供給不足による減産影響が発生
- ・当期の国内完成車生産は887千台、前年同期比+17.6%
- ・生産台数増加に伴い販売台数も増加

国内生産台数推移 (完成車のみ) (千台)

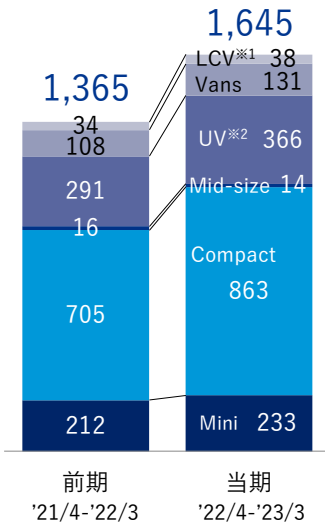


© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 16 / 31

日本の販売実績につきましては、半導体を含む部品供給不足の影響が前期よりも減少、生産台数増加に伴い販売台数も増加しました。

通期実績

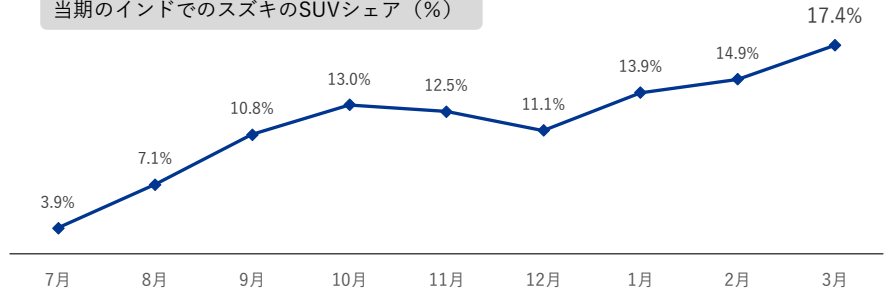
+ 280千台 (+20.5%)
(千台)



● 当期のインド販売

・ SUVの投入により、シェア回復を図る

当期のインドでのスズキのSUVシェア (%)



● トピックス

- ・ 1983年12月の生産、販売開始以来、インド国内累計販売2,500万台を達成
- ・ プレミアム車販売店のNEXAが累計販売台数200万台を達成
- ・ 当期までで累計輸出台数が250万台を突破

注. 左側グラフは商用車含む卸販売実績、OEMを除く ※1 LCV=Light Commercial Vehicles ※2 UV =Utility Vehicles

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 17 / 31

インドの販売実績につきましては、
新型SUV投入もあり前期に比べ+20.5%増加しました。

SUVシェアは「ブレッツァ」、「グランドビターラ」投入以降、
順調に拡大しています。

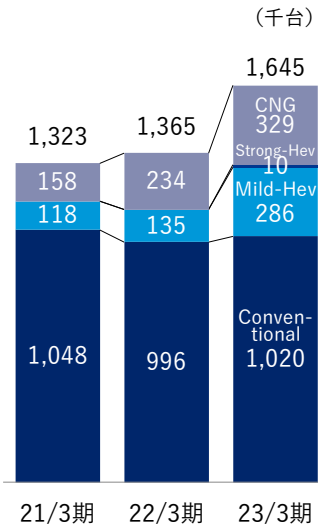
「フロンクス」、「ジムニー5ドア」も受注は好調です。

1月には1983年12月の生産、販売開始以来、
インド国内累計販売台数2,500万台を達成しました。

3月にはプレミアム車販売店のNEXAで販売台数200万台を達成、
累計輸出台数は250万台を突破いたしました。

BEV一辺倒でなく **CNG車、HEV**などを含めた「**多様な道筋**」でカーボンニュートラルに貢献

パワートレイン別



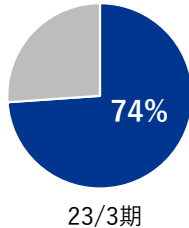
● **パワートレイン別販売状況**

- ・ CNG車、HEVなど多様な選択肢を提供
- ・ 従来型のコンベンショナルエンジン搭載車は100万台前後で推移
- ・ 一方、CNG車、HEVが増加

● **CNG車の環境性能**

- ・ CNG車はガソリン車に比べてCO₂排出量▲17%
- ・ インド政府もカーボンニュートラル達成に向けてCNG車の活用を掲げる

インドでのスズキのCNG車市場シェア



CNG車とガソリン車の比較例…ワゴンRLXI 5MT比較

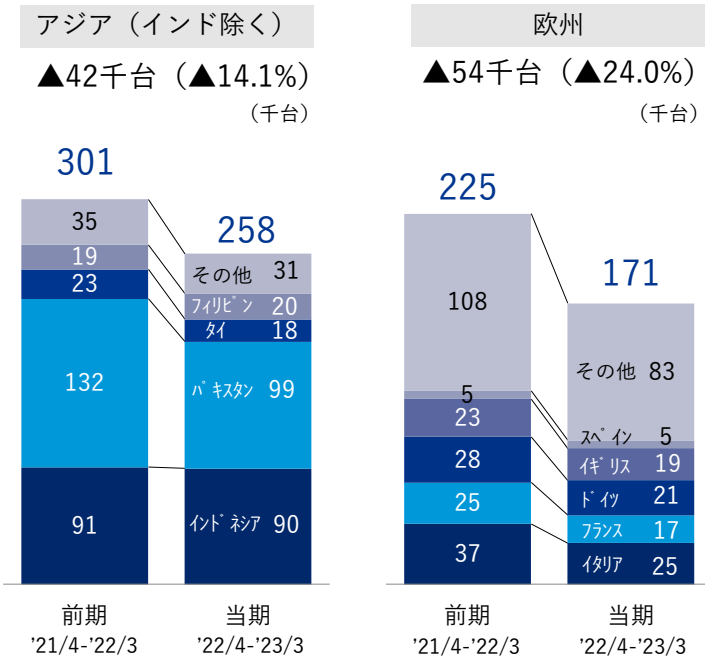
	末端価格	燃費	燃料価格	1万キロ走行時	
				燃料代	CO ₂ 排出量
ガソリン車	554.5千Rs	24.35km/L	96.72Rs/L	40千Rs	974kg
CNG車	644.5千Rs	34.05km/kg	73.59Rs/kg	22千Rs	805kg
差	+90.0千Rs	-	-	-18千Rs	-169kg
			差異率	-46%	-17%

注. 末端価格 … 23年5月1日現在、燃料価格…23年5月1日ディーゼル価格
CO₂排出量 … インド電力省 "SO 1072E dt 23rd April 2015"に基づき算出

インドにおけるカーボンニュートラルについては、BEV一辺倒ではなく、CNG車、HEVなど多様な選択肢を提供してまいります。最近3年間の推移を見ても、コンベンショナルエンジン搭載車は100万台前後で推移しているのに対し、CNG車、HEVが増加しています。

CNG車は通常のガソリンエンジン車に比べてCO₂排出量が17%低く、より環境にやさしい車です。

インド政府もカーボンニュートラル達成に向けてCNG車の活用を掲げています。



インドネシア | グランドビターラ発売（2月）



欧州 | S-CROSSにもストロングハイブリッドを追加（10月）

インドを除くアジアおよび欧州での販売実績につきましては、前期に比べ減少しました。

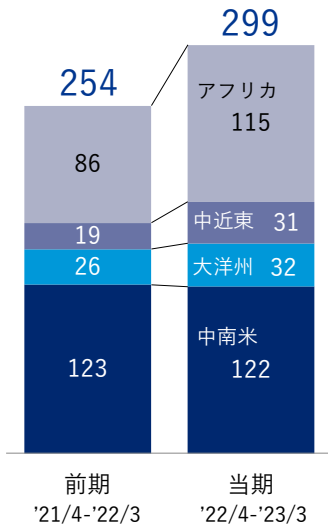
パキスタンでは、輸入規制が発生し、KD部品の輸入ができず、生産に影響したため、販売台数が減少しました。

欧州は自動車専用船不足による輸送影響や半導体不足影響により、在庫不足となり、販売が大きく減少しました。

しかし直近の1～3月は供給が回復したことにより、前年を上回っています。

通期実績

+44千台 (+17.5%)
(千台)



● 当期の販売

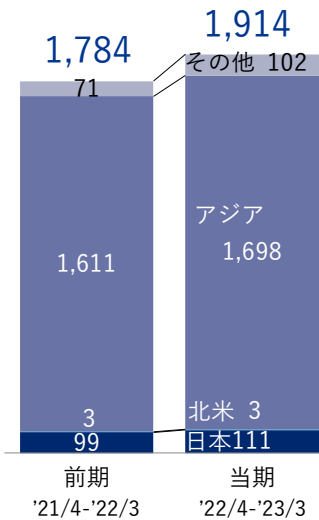
(千台)	台数	前期比	
アフリカ	115	+29	+33.5%
南アフリカ	50	+19	+60.6%
エチオピア	15	+6	+73.2%
エジプト	12	▲14	▲53.5%
コートジボワール	11	+6	+107.8%
アンゴラ	9	+5	+163.5%
ガーナ	1	+0	+49.7%
その他	17	+7	+65.0%
中近東	31	+11	+60.0%
大洋州	32	+6	+21.5%
オーストラリア	21	+4	+20.4%
中南米	122	▲1	▲1.2%
メキシコ	41	+8	+22.5%
コロンビア	20	+1	+7.9%
チリ	19	▲11	▲35.4%

その他地域の販売実績につきましては、アフリカ、中近東、大洋州で大幅に増加しております。特にアフリカでは大きく台数を伸ばしており、南アフリカでは過去最高の販売台数となりました。

トピックとしては、9月よりガーナでスイフトの車両組立生産を開始しています。

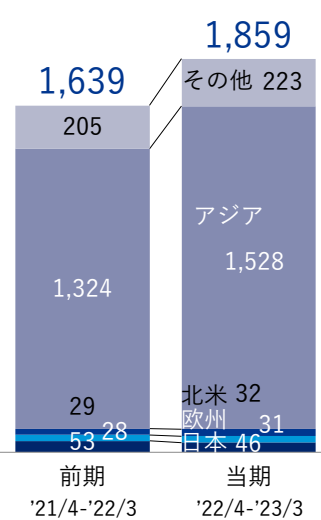
生産実績

+130千台 (+7.3%)
(千台)



販売実績

+220千台 (+13.4%)
(千台)



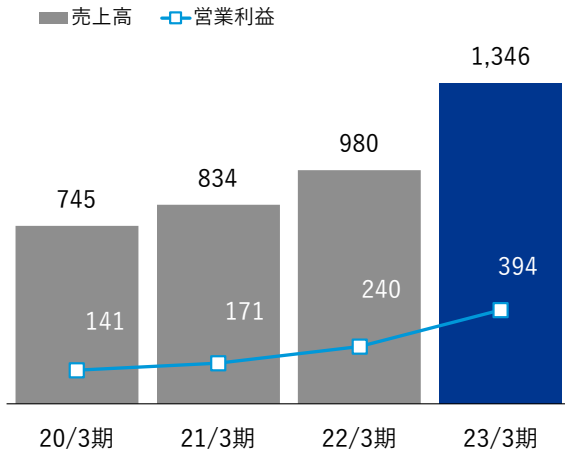
● 当期の世界販売

(千台)	台数	前期比	
世界販売	1,859	+220	+13.4%
日本	46	▲8	▲14.6%
欧州	31	+3	+9.1%
北米	32	+3	+11.5%
アジア	1,528	+204	+15.4%
インド	740	+130	+21.4%
中国	430	+27	+6.8%
フィリピン	197	+36	+22.5%
その他	161	+10	+6.8%
その他	223	+18	+8.7%
中南米	198	+30	+17.5%
その他	24	▲12	▲32.3%

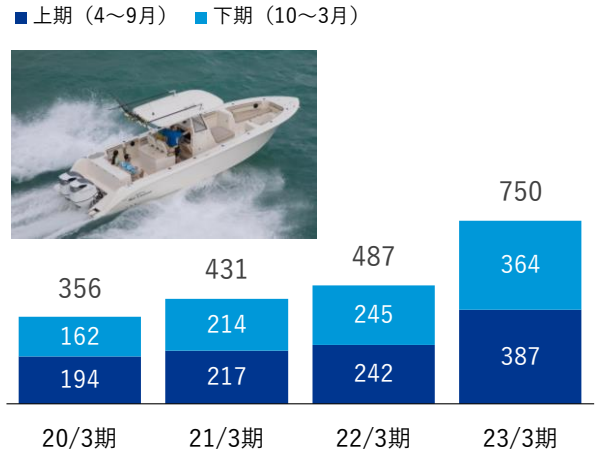
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 21 / 31

二輪車につきまして、生産、販売ともに増加しました。
販売は、特にインド、フィリピン、中南米で増加しました。

マリン事業 売上高・営業利益推移 (億円)



マリン事業 北米売上高推移 (億円)



マリン事業につきましては、北米での販売が堅調に推移しており、売上高、営業利益ともに過去最高となりました。

大型船外機の需要は引き続き堅調な見通しで、12月末より湖西船外機工場を2勤化いたしました。今後B/O解消に向けて増産してまいります。

通期実績

…増収・増益

(億円)	当 期 (’22/4-’23/3)	前 期 (’21/4-’22/3)	増 減		補 足
				増減率	
売上高	22,172	16,908	+5,264	+31.1%	4期振り増収
国内	9,681	8,362	+1,319	+15.8%	
輸出	12,490	8,546	+3,945	+46.2%	
一 般	7,341	5,282	+2,059	+39.0%	
三国間	5,150	3,264	+1,886	+57.8%	
営業利益 (利益率)	1,277 (5.8%)	780 (4.6%)	+497	+63.8%	2期連続増益
経常利益 (利益率)	1,698 (7.7%)	931 (5.5%)	+767	+82.5%	2期連続増益
当期純利益 (利益率)	1,453 (6.6%)	830 (4.9%)	+624	+75.2%	4期連続増益

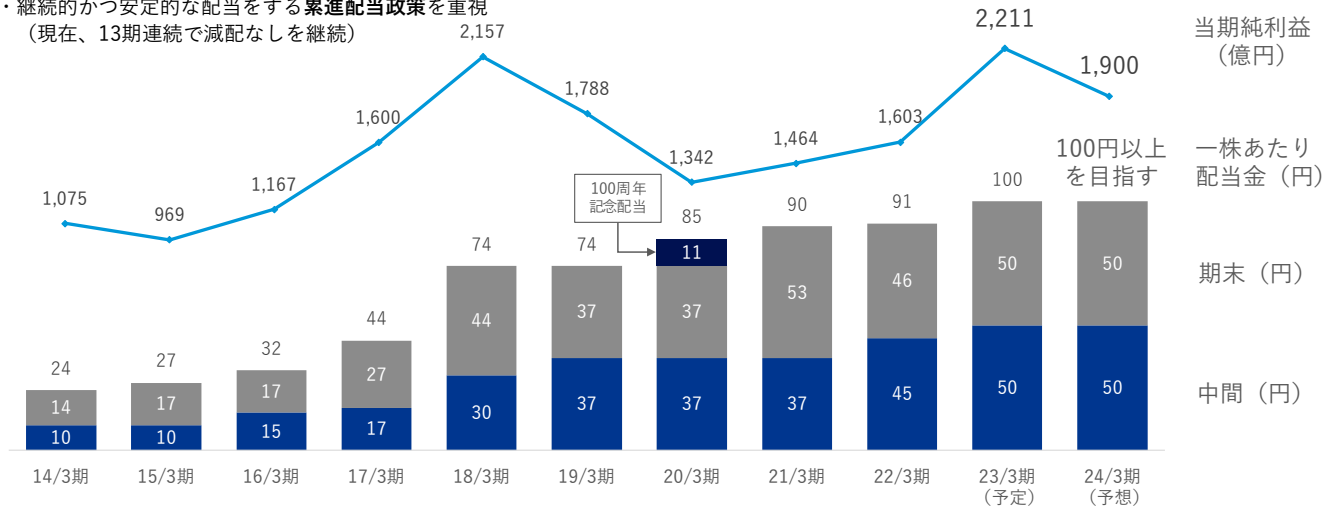
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 23 / 31

単独業績につきましては、増収増益となりました。

原材料価格の高騰や研究開発費の増加が、減益要因となった一方で、売上高増加、為替円安により増益となっています。

23/3期 **年間配当 100円** (前期比9円増配) 過去最高額
 24/3期 減益予想も**100円以上の配当**を目指す
 600万株、200億円を上限とする自己株式取得を実施予定

・継続的かつ安定的な配当をする**累進配当政策**を重視
 (現在、13期連続で減配なしを継続)



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 24 / 31

当期の年間配当金は、
 前期より9円増配の1株当たり100円とさせていただきます。

配当方針につきましては、
 継続的かつ安定的な配当をする累進配当政策を重視しております。

当期まで13期連続で減配することなく配当を行っており、
 今後も成長投資とのバランスを考慮し、株主の皆様へ還元してまいります。

次期の配当につきましては、
 次期業績予想は減益予想ですが、累進配当政策に基づき、
 当期同額の年間100円以上の配当を目指します。

さらに600万株、200億円を上限とする自己株式取得を実施いたします。

(億円)		次期予想 ('23/4-'24/3)	当期実績 ('22/4-'23/3)	増 減		補足
					増減率	
連結 業績	売上高	49,000	46,416	+2,584	+5.6%	3期連続増収
	営業利益 (利益率)	3,300 (6.7%)	3,506 (7.6%)	▲206	▲5.9%	2期振り減益
	経常利益 (利益率)	3,400 (6.9%)	3,828 (8.2%)	▲428	▲11.2%	4期振り減益
	当期純利益 [※] (利益率)	1,900 (3.9%)	2,211 (4.8%)	▲311	▲14.1%	4期振り減益
世界 販売	四輪車	3,186千台	3,000千台	+186千台	+6.2%	
	二輪車	1,941千台	1,859千台	+82千台	+4.4%	
配当	一株当たり 年間配当金	100円以上	100円	-	-	-

※ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

(参考) 2025年3月期第1四半期から従来の日本基準に替えて国際財務報告基準 (IFRS) を任意適用する予定

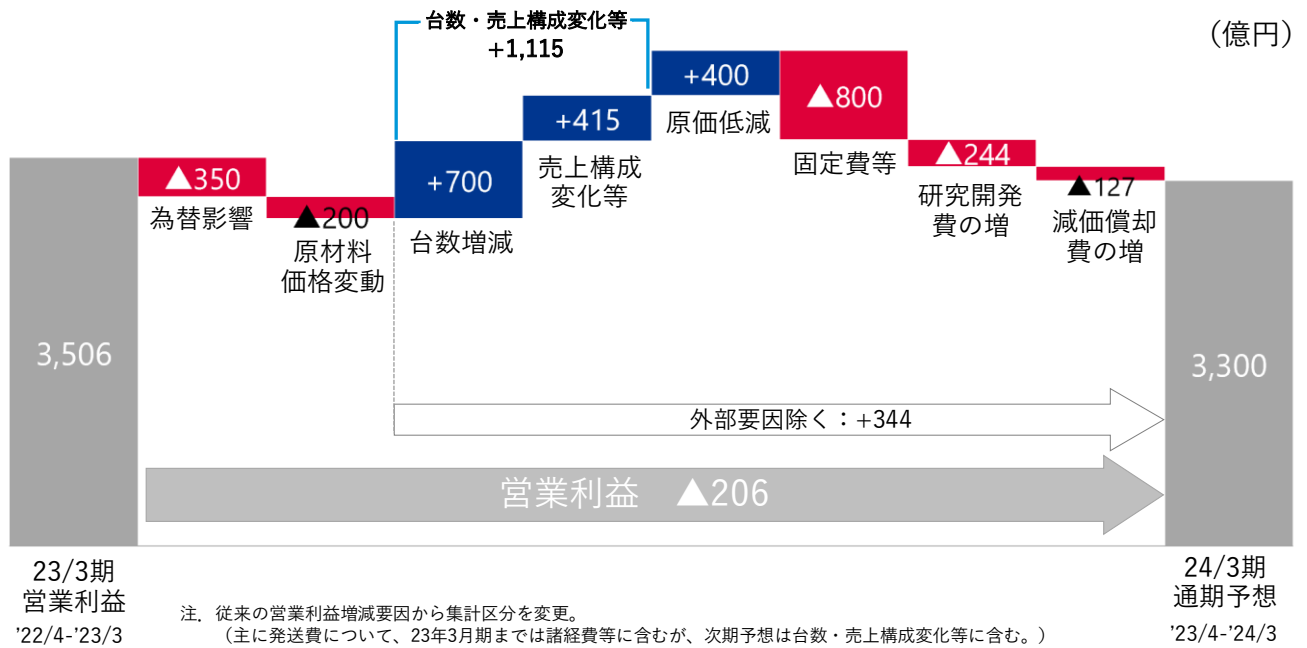
次期業績予想についてご説明いたします。

売上高につきましては、4兆9,000億円、
営業利益見通しは、
為替円高や原材料価格高騰等の減益要因に加え、
成長戦略の実現に向けた将来への投資の拡大により、
3,300億円となる予想です。

四輪車の販売につきましては、318万台といたしました。

配当につきましては、先ほどご説明した通り、
100円以上を目指します。

尚、参考情報ですが、2025年3月期第1四半期から、
従来の日本基準に替えてIFRSを任意適用する予定です。



24年3月期より、営業利益増減要因については、
会社内の固定費管理の活動を公表値にも使用し組み替えることとしました。

営業利益は当期実績に対し、▲206億円の減益を見込みますが、
成長戦略の実現に向けて積極的に投資するためです。

具体的には、

- 固定費等の増 ▲800億円
- 研究開発費の増 ▲244億円
- 減価償却費の増 ▲127億円

となります。

外部要因としては、

- 為替影響 ▲350億円
- 原材料価格変動 ▲200億円

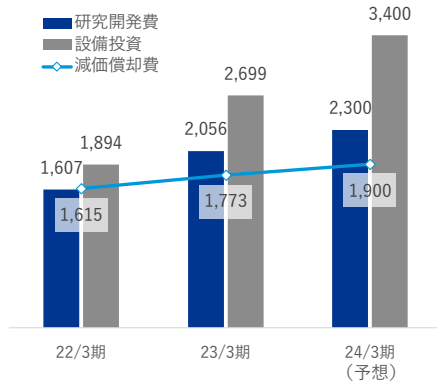
の減益要因となります。

これら減益要因を、

- 台数増 +700億円
- 売上構成変化等 +415億円
- 原価低減 +400億円

でカバーしてまいります。

<設備投資・減価償却費・研究開発費>				<為替レート>			営業利益 為替影響 (億円)	
(億円)	通期予想	前期比較		通期予想	当期実績	増減		
		当期実績	増減					
設備投資	3,400	2,699	+701	インドルピー	1.60円	1.70円	▲0.10円	▲185
減価償却費	1,900	1,773	+127	米ドル	130円	136円	▲6円	▲59
研究開発費	2,300	2,056	+244	南アフリカランド	7.20円	7.99円	▲0.79円	▲51
				オーストラリアドル	88円	93円	▲5円	▲24
				パキスタンルピー	0.46円	0.61円	▲0.15円	▲22
				インドネシアルピア※	0.87円	0.90円	▲0.03円	▲12
				ポンド	162円	163円	▲1円	▲6
				ニュージーランドドル	82円	84円	▲2円	▲4
				メキシコペソ	7.10円	6.91円	+0.19円	+26
				ユーロ	142円	141円	+1円	+17
				その他通貨	-	-	-	▲30
				為替影響額 計				▲350

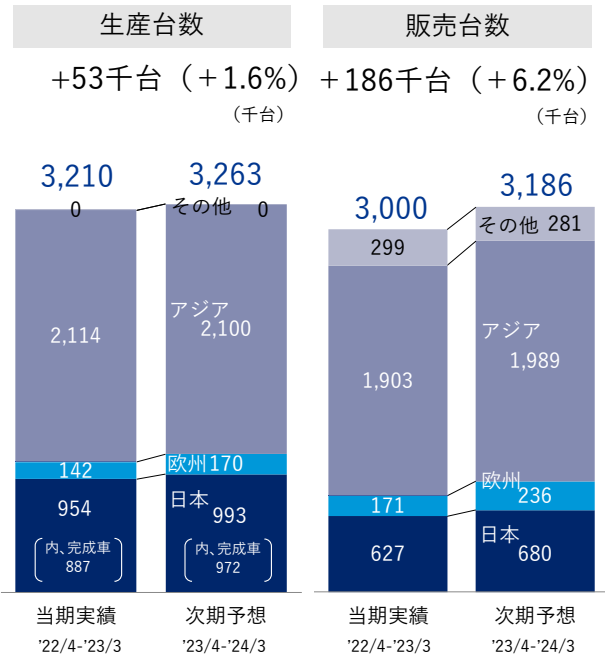


※インドネシアルピアは100ルピア当たりのレート

為替レートにつきましては、
足元の円高を踏まえ、1ドル130円と設定いたしました。

研究開発費につきましては、終わった期よりさらに244億円上積みし、
2,300億円といたしました。

2030年度に向けた成長戦略でご説明した通り、
引き続き研究開発を加速してまいります。



●生産台数

(千台)	次期予想	当期実績	増減	増減率
世界生産	3,263	3,210	+53	+1.6%
日本	993	954	+39	+4.1%
欧州	170	142	+28	+19.3%
アジア	2,100	2,114	▲14	▲0.7%
その他	-	0	-0	▲100.0%

●販売台数

	次期予想	当期実績	増減	増減率
世界販売	3,186	3,000	+186	+6.2%
日本	680	627	+53	+8.4%
欧州	236	171	+65	+37.8%
アジア	1,989	1,903	+86	+4.5%
その他	281	299	▲18	▲6.0%

インドは市場成長率（前年比+5~7%）を上回る見通し

四輪車の生産台数につきましては、
当期実績に対して、国内4万台、海外1万台、
あわせて5万台増加する見込みです。

販売台数につきましては、
スズキ開発、TKM生産のグランドビターラの販売も増えることから、
世界計で18万台増加する見込みです。

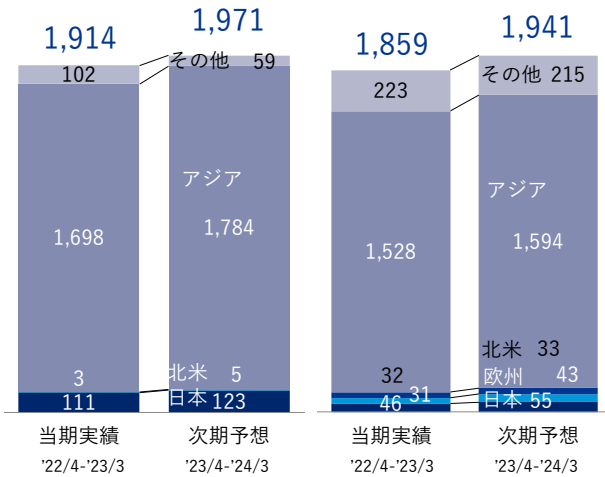
インド四輪の市場成長率は前年比+5~7%の予想で、
当社のインド四輪販売台数はこれを上回る見通しです。

生産台数

+57千台 (+3.0%)
(千台)

販売台数

+82千台 (+4.4%)
(千台)



●生産台数

(千台)	次期予想	当期実績	増減	増減率
世界生産	1,971	1,914	+57	+3.0%
日本	123	111	+12	+11.2%
北米	5	3	+2	+57.3%
アジア	1,784	1,698	+86	+5.1%
その他	59	102	▲43	▲42.3%

●販売台数

	次期予想	当期実績	増減	増減率
世界販売	1,941	1,859	+82	+4.4%
日本	55	46	+9	+20.6%
欧州	43	31	+12	+39.6%
北米	33	32	+1	+3.4%
アジア	1,594	1,528	+66	+4.3%
その他	215	223	▲8	▲3.5%

二輪車の生産台数につきましては、
当期実績に対して、国内1万台、海外5万台、
あわせて6万台増加する見込みです。

これに伴い販売台数につきましては、世界計で8万台増加する見込みです。



2023年3月期 決算説明会

2023年5月15日
スズキ株式会社

ご清聴ありがとうございました。

(参考) 裏表紙画像

スポーツアドベンチャーツアラー「V-STROM(ブイストローム)800DE」



将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありえますことをご承知おき下さい。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動（主に米ドル/円相場、ユーロ/円相場、インドルピー/円相場）などが含まれます。